

2007年9月21日

お得意先 各位

伊藤忠飼料株式会社

2007年10～12月期の配合飼料供給価格について

当社は2007年10～12月期の配合飼料供給価格について、以下の飼料原料・外国為替情勢を踏まえ、2007年7～9月期に対し、全国畜種平均トン当り約250円値下げすることを決定致しました。尚、改定額は地域別・畜種別・銘柄別に異なります。

I. 主原料市況

トウモロコシのシカゴ定期は、米国農務省より連続して生産高の上方修正が行われ、期末在庫率が13%まで引上げ改定されるなど、トウモロコシ自体にあまり強材料はないものの、急伸する小麦や大豆に影響され底堅い相場展開となっており、現在は340～350セント/ブッシェル程度で推移しております。今後のシカゴ定期は、米国の旺盛な国内需要と輸出需要、更には高騰を続ける小麦に影響され堅調に推移する見通しです。

II. 蛋白原料市況

大豆粕のシカゴ定期は、大豆の作付面積の減少による期末在庫の低下や小麦の騰勢、更には東南アジア向けなど輸出需要の増加に支援され、現在は250ドル/ショートトンを超える水準に上昇しております。今期の大豆粕は前期に比べ上昇する見通しです。魚粉価格は7～9月期並で推移すると見込まれます。脱脂粉乳価格は、世界的な需給の逼迫により高騰を続けております。

III. 海上運賃

海上運賃は、依然中国の鉄鉱石輸入が好調であることや、豪州や南米での滞船が続いたことにより、最高値更新となる100ドル/トンを超えて高騰しています。今後も、中国の鉄鉱石輸入等の旺盛な船腹需要により、堅調推移が見込まれます。

IV. 外国為替

外国為替は、8月中旬、米サブプライム住宅ローン問題を背景にした金融市場の混乱から、リスク回避に伴う円キャリートレードの巻き戻しにより112円割れまで円高が進みましたが、米国公定歩合の引下げなどにより市場の混乱が沈静化したことから、現在は116円を中心に推移しております。

以上

(お問合せ先)

伊藤忠飼料株式会社

飼料営業統轄部 (三枝、長谷川)

TEL : 03-5626-3231